



令和4年 1月 18日

報道機関 各位

東北大学大学院文学研究科  
東北大学埋蔵文化財調査室  
村田町教育委員会

### 地域に根ざした文化財の将来を目指して -文化財の研究・活用に関する相互協力協定 締結について-

#### 【発表のポイント】

- ・ 東北大学大学院文学研究科・東北大学埋蔵文化財調査室は、村田町教育委員会と相互協力し、実践的な研究・活用事業を実施する協定を結ぶこととした。
- ・ この協定により、地域にある貴重な文化財に関して、現在の新しい知見や技術を用いて、あらたな文化財の価値を見出すことができ、町・大学の事業において利活用することができる。
- ・ この事業では、若い学生達が実地で学ぶ研修の場としても活用することができ、村田町民との人的交流の場としても機能するものと考えられる。

#### 【概要】

村田町には、学術上重要な遺跡などの多種多様な文化財が存在する。これらの文化財を対象として、東北大学大学院文学研究科・埋蔵文化財調査室は、村田町教育委員会と相互協力し、実践的な研究・活用事業を実施する協定を結ぶこととした。本協定は、「三者の人的・知的資源及び研究成果等の交流を促進し、文化財の研究・活用分野において協力し、地域における文化事業の振興と人材育成に寄与することを目的」としている。

また、連携事項は、(1)文化財の利活用を通じた文化事業の振興に関すること、(2)文化財の学術研究に関すること、(3)文化財を通じた教育・人材育成に関することの3点となる。

※(2020年姥沢遺跡発掘調査の様子)



## 【詳細な説明】

東北大学大学院文学研究科考古学研究室は、令和1・2（2019・2020）年度に、東北大学埋蔵文化財調査室の協力のもと、村田町沼田に所在する姥沢遺跡の発掘調査を実施した。

姥沢遺跡は、過去に地元町民が採集していた縄文土器等の出土遺物によって、縄文時代中期中葉から後期前葉（約4900～4000年前）にかけての時期の遺跡であることがわかった。それらの土器の中には、東北北部、関東、北陸地方等の他地域の土器が混ざっていることから、縄文文化の地域性や文化交流を考える上で、非常に重要な遺跡であることが判明した。

これまでの発掘調査では、2箇所の縄文時代の遺物が含まれる土層を確認しており、過去に採集されたものと同じ様な遺物を確認している。今後、継続して調査を実施し、姥沢遺跡の全体像について研究を進める予定である。

本協定は、このような調査を町・本学の事業の一環として捉え、姥沢遺跡の研究だけではなく、村田町に所在する文化財に関する研究と利活用の枠組みとして設定し、地方自治体における文化財のあり方に関するモデルケース事業としていきたい。

このような経緯等を踏まえ、当年度の事業内容として、下記の2件を予定している。

### ① 姥沢遺跡出土遺物の展示会

姥沢遺跡出土資料に関して、村田町歴史みらい館にて展示会を実施する。これは、東北大学大学院文学研究科の考古学実習の一環として行われる事業である。

姥沢遺跡からの出土遺物に関する研究成果を、地元住民にわかりやすく説明することにより、地元文化財に関する意識を深めることを目的とする。また、学生が博物館で行う実務的な実習授業となることから、人材育成にとっても大変有益なものと考えられる。埋蔵文化財調査室は、姥沢遺跡出土遺物に関する研究・展示に関して協力する。

### ② 姥沢遺跡の継続的な発掘調査

東北大学大学院文学研究科考古学研究室が中心となった発掘調査を、令和4年3月に計画している。姥沢遺跡に関する学術的研究を進めるとともに、その成果を地元住民に現地にて説明し、埋蔵文化財に関する理解を深めたい。

## 【問い合わせ先】

東北大学大学院文学研究科 教授 鹿又喜隆

電話 022-795-6071

E-mail yoshitaka.kanomata.d8@tohoku.ac.jp

東北大学埋蔵文化財調査室 特任准教授 菅野智則

電話 022-217-4995

E-mail tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

村田町教育委員会 歴史みらい館事務局(中央公民館内・生涯学習課)

主査 鈴木沙織

電話 0224-83-2023 FAX 0224-83-3385

E-mail suzuki-s@town.murata.miyagi.jp